

新たな相撲部屋の経営の在り方に関する研究

トップスポーツマネジメントコース
5020A317-2 萩原 寛

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 背景

筆者は稀勢の里寛として第 72 代横綱となり、2019 年の引退後は年寄・荒磯として後進の指導をしている。そして今後は「荒磯部屋」を運営する「親方」になる予定である。親方とは、弟子の発掘から育成、床山や行司などの職種のマネジメント、さらにはファン・支援者の獲得等、相撲部屋の経営に関わる全ての責任者である。しかし、親方業についての情報は少なく、自分の師匠等の姿から学ぶことがほとんどで、相撲部屋の経営に関する先行研究もほとんどない。相撲部屋の経営でも、スポーツビジネスのモデルとして提唱されているトリプルミッションで取り組むべき 3 点（勝利、普及、資金）を基軸に、取り組むべき内容が明確になれば、安定した部屋の経営ができると考え、本研究を行う。

2. 研究目的

本研究は、相撲部屋の現状と課題をトリプルミッションの項目ごとに分析し、勝利、資金、普及の各面における改善策を明らかにし、新たな相撲部屋経営の在り方を導くことを目的とする。

3. 研究方法

相撲関係者からのヒアリングや視察、日本相撲協会の規則等の関連資料および自身の経験から①稽古②食事③時間の使い方④科学的手法の導入⑤資金⑥普及について情報収集した。

次に、上記の項目と他スポーツの経営者やスポンサー、競技関係者等からのヒアリングおよび視察との比較を行い、現状の相撲部屋の課題、改善点を抽出し、トリプルミッションの視点で分析した。

4. 結果

①稽古 相撲の稽古は早朝から昼前までの時間に行われていた。稽古は、幕下以下など番付が低い力士から高い力士の順に実施することが伝統的に行われている。相撲部屋のほとんどは都内にあるため敷地面積に限界があり、基本的には各相撲部屋に土俵が 1 つしかない。そのため番付が低い力士は朝 6 時ごろから稽古を開始し、その後は横綱等の番付が高い力士の稽古が終わるまで、土俵脇で見学が続くため、待ち時間が多い。稽古の内容は四股、すり足、テッポウ、ぶつかり稽古、取り組みといった伝統的な内容で、各力士の手足の長さや体重等の特性に応じた稽古内容が用意されることはほとんどない。また、入門間もない 10 代で筋力が整わない成長期の力士に勝ち負けにこだわる取り組みをさせて怪我を招き、早期の引退を余儀なくさせる事例も散見された。加えて、メディアも稽古の質ではなく、取り組みの数に注目する傾向があった。

②食事 相撲部屋の食事は伝統的な「ちゃんこ」によって賄われ、朝稽古後の 10～11 時頃および 18 時頃にちゃんこ鍋と一品料理を 3 品程食べる。メニューはその日の「ちゃんこ番」である幕下力士が決めて、調理もする。食事は上位力士から順にとる

ため、昼食においては、幕下以下の力士は兄弟子の食事の給仕後、稽古から 1 時間以上経った頃にやっと食事ができる。食事内容には、稽古時間や各力士の身体づくりの状況等は考慮されず、全員が同じ内容を食べる。

③休息を含めた時間の使い方 身体づくりには睡眠も重要だが、大部屋が基本のため良い環境ではない。朝稽古をし、食事を済ませた後の自由時間の使い方は各自に任されている。そのため現在は昼寝や兄弟子の雑用対応に使う力士が多く、午後の時間の使い方は改善の余地があることが分かった。

④科学的手法の導入 ウェイトトレーニングの指導はほとんどなく、マシンが完備されている相撲部屋は少ない。稽古を映像に撮ってデータ分析する設備や、稽古内容や本場所に向けての作戦を話し合うためのミーティングルームもほとんどない。

⑤資金 主な収入源は、協会から所属力士人数分支給される給付金および後援会からの支援・寄付である。看板やバナー等を掲出して企業とスポンサー契約し、資金的援助を受けている事例はなかった。

⑥普及 相撲部屋独自の普及活動のメインは朝稽古見学の開催である。狭い場所で支援者を受け入れているため、土俵脇で力士と共に見学をしているだけで場合が多い。また、トイレや導線が力士と共有であったりする等、受け入れ体制に課題がある。

5. 考察

(ア) 新たな相撲部屋経営とトリプルミッション

(1) 勝利 ①新たな稽古像：J リーグクラブや NFL 等では、練習内容においても選手の成長段階に応じたトレーニングの実施や、客観的データを用いながら疲労度やピーキングを意識した低中高強度の内容を組み合わせていた。相撲は年間 90 番の取り組みがあり、そこで身体を壊さないように鍛錬することが何より重要である。これまで稽古の方法や型の指導がどの力士に対しても同じ内容で行われてきたが、今後は力士の体型や特性に合わせた稽古内容、トレーニング方法、食事や休養のとり方等に対して科学的知見も取り入れた指導が重要である。そのためには、複数面の土俵を設置、数人同時利用可能なウェイトトレーニングマシンの完備をはじめ全ての力士が効率良く稽古ができる環境や、稽古を映像に撮ってデータ分析する設備や稽古内容や本場所に向けての作戦を話し合うためのミーティング部屋を持ち、科学的知見も取り入れながら、成長段階や疲労度、身体的特性を各力士の状態を考慮した稽古を行うべきである。

②新たな力士の一日：力士の 1 日の理想像は、すべての時間を取り組みおよび稽古で最大のパフォーマンスが発揮されるよう構成されたものと考えられる。従来の相撲部屋の 1 日は、あまりにも早朝で十分な睡眠時間を取らず、かつ、朝食を摂らずに稽古を行ってきた。また、午前中に稽古を行うだ

けで午後の活動は各力士に委ねられ、休息を意識した日課は確立できていない。2019年ラグビー日本代表チームは直前の1年間ほぼ合宿を行ったが、トレーニングや食事のタイミング、休息の時間までもをコントロールし、日課に含んでいた。

今後の相撲部屋のあるべき1日として午前中はトレーニング、午後は稽古、夜はミーティングや勉強会というような部屋としての活動を充実させることが望ましい。稽古やウエイトの直後に食事のタイミングを入れるべきである。また、負傷した力士の一日の過ごし方は特別に考慮すべきである。そして、幕下以下の力士の住まいも近年の生活スタイルを考慮するならば、大部屋住まいも再考すべきである。フランスの全寮制サッカーエリート養成学校のクレールフォンテーヌの例のように技力とともに人格形成も平行して行うことが必要となるだろう。相撲部屋の稽古についても単なる相撲の技術向上に留めるのではなく、人間形成の場として相撲以外の学びの機会の提供することが求められる。

③新たな栄養管理：ラグビー等の栄養管理の面では、外部の専門家のサポートも受けながら、リハビリや筋力増強等の目的に応じて食事メニュー、摂取タイミング、プロテインやサプリメントの摂取等が決められていた。相撲部屋においても1日2食の「ちゃんこ」を3食に改めた上で、食事以外にも栄養士や調理師等のサポートを受けた補食を摂る必要がある。筆者は先代・鳴戸親方から糖尿病等の生活習慣病にならないように厳しい食事指導を受けた。鳴戸親方は自身でメニューや調理法を定め、食べ方まできめ細かく指導した。相撲部屋においては体格向上と共に、生活習慣病予防も不可欠である。

(2) 資金 Jリーグクラブの収入はリーグからの支援や入場料収入もあるが、スポンサー収入が経営を支えていた。相撲部屋の収入は、後援会の貢献が大きいものの、企業の経費としての収入の割合は極めて少なかった。今後の相撲部屋は、看板、幟、バナー掲示やHPの工夫等によってスポンサー収入等による資金獲得を検討すべきである。

(3) 普及 Jリーグクラブでは選手育成を目的としたアカデミーの他に、キッズを対象としたスクール事業を展開することで地域に根ざした活動を行うことや、トップチームの練習が見学できるような施設も充実していた。相撲部屋主催の「わんぱく相撲」の開催等を通じて、地域の住民から相撲をより身近に感じてもらう取り組みを今後増やすことが必要である。

(イ) 新たな稽古場の提言

相撲部屋のトリプルミッションの好循環の中心となる新たな稽古場の建設が必要である。

JリーグクラブやNFL等の練習場は同時に各年代が練習できるように複数面ありデータ分析ができる施設、メディア対応やファンサービス等のエリアがある。相撲部屋においても、土俵を複数面作り、力士が順番待ちをせずに効率的に稽古ができ

る環境を作る。そのためには、数人同時利用可能なウエイトトレーニングマシン室を整える。またカメラ設備やミーティングルーム等の環境を整備し、各力士の取り組みを客観的に把握・分析できる環境が望ましい。

また、看板・幟等の場所を十分に確保した上で、力士の活動を対外的に発信できるプレスルーム等の広報面の環境も充実させ、二階から稽古を見学できるような観客席や駐車場等の整備を行い、力士と支援者・後援者やファンと交流できる環境を整備したい。稽古の空き時間には、子ども向けの体験会や見学者へのちゃんこ鍋の提供等の普及活動も行い、お土産の販売エリアも作る。(図参照)

(ウ) 親方の使命

親方は、弟子が強くなることを最優先に考えることが第一である。その為には、科学的手法を用いて稽古場で技術的な指導をするだけでなく、稽古場以外でも力士との対話を通じて一人の人間として成長させることが親方の責任であると考えられる。また、スポーツの世界で言えば、トップチーム監督のみならずジュニアユースコーチ、さらにクラブ社長を兼任する。理念に基づき勝利、普及、資金の全てを拡大することが親方の使命である。

6. 結論

新たな相撲部屋の経営のためには、大相撲の伝統を深く理解しつつ、科学的な稽古やスポーツビジネスの手法を導入することが必要となる。親方は精進しその中心としての使命を担う。

図1 新たな稽古場の例

